

## 理学部の入学者選抜における特色入試（女性募集枠）の新設について

【ご意見・ご要望】(投稿日:2024年3月21日)

教育推進・学生支援部厚生課厚生掛 御中  
理学部 御中

特色入試(女性募集枠)の新設が京都大学より発表され、その対象学部として理学部も含まれていることを確認いたしました。確かに、理学部の性別比は著しく偏っており、性別比が均等である場合に比べて女性が入学を避けやすいと想像されます。優れた研究者や責任ある職業人となりうる資質を持った女性が性別比を理由に出願せず、京都大学理学部で学ぶ機会を逸してしまう事態を回避するためにもこの不均衡を緩和するべきでしょう。しかしながら、単純に女性募集枠を設ける措置は、京都大学理学部への入学を志望する男性に不利益と不公平感を与えるのみならず、女性募集枠で入学した女性に対する偏見や憎悪を誘発しかねません。理学部の卒業生として深く憂慮します。

また実際的な問題として、発表された方式(一般枠との併願不可)では、出願状況次第で数学系志望の女性が女性募集枠に出願するよりも一般枠に出願した方が合格しやすい、ややこしい事態(すなわち、女性募集枠の出願者が多すぎてむしろ一般枠の方が合格しやすい)もありえてしまいます。

以上を踏まえ、以下の通り質問し、提案いたします。

1. 前提として、この女性募集枠の新設によってその分理学部の入学者定員数は増えるのでしょうか？(増えるのであれば問題はやや小さいと思われます)
2. 女性募集枠が設けられた分野は女性が少ない分野ということで選ばれたのでしょうか？
3. 女性募集枠と同数の男性募集枠の新設と一般枠の廃止、あるいは性別によらずに募集して各性別それぞれの成績上位者同数を合格とする(または付け加えて残りの受験者を性別にかかわらず成績の順に合格としていく)方式を提案いたします。このようにすれば、理学部の性別不均衡を緩和しながらも(各性別の出願者数によって入学難易度の差こそあれ)形式上平等な扱いとなって不公平感が大幅に軽減されるものと考えられますし、もし理学部志望者の性別比が逆転する年があっても均衡を保てる制度になると考えられます。

「女性の理学部生を増やすために(ただ単に)女性募集枠を新設する」という既存の概念を無批判に受け入れることなく、注意深く検討していただきますようよろしくお願い申し上げます。

【回答】(回答日:2024年4月4日)

(回答部署:理学部教務掛)

理学部の入学者選抜における特色入試(女性募集枠)の新設について、ご意見ありがとうございます。

京都大学としては、令和6年3月21日開催の記者会見で説明したとおり、現在の理学部の女性学生率は他大学と比較しても著しく低い。ため積極的にジェンダー・バランスを改善することが必要と考えており、令和8年度から特色入試に総合型選抜の女性募集枠を新設することとなりました。ご質問については、下記のとおり回答させていただきます。

1. 前提として、この女性募集枠の新設によってその分理学部の入学者定員数は増えるのでしょうか？(増えるのであれば問題はやや小さいと思われ)

→女性募集枠の新設により、入学者定員数は増えません。

2. 女性募集枠が設けられた分野は女性が少ない分野ということで選ばれたのでしょうか？

→はい、そのように検討しました。

3. 女性募集枠と同数の男性募集枠の新設と一般枠の廃止、あるいは性別によらずに募集して各性別それぞれの成績上位者同数を合格とする(または付け加えて残りの受験者を性別にかかわらず成績の順に合格としていく)方式を提案いたします。このようにすれば、理学部の性別不均衡を緩和しながらも(各性別の出願者数によって入学難易度の差こそあれ)形式上平等な扱いとなって不公平感が大幅に軽減されるものと考えられますし、もし理学部志望者の性別比が逆転する年があっても均衡を保てる制度になると思われます。

→ご意見ありがとうございます。今後の検討材料とさせていただきます。

以上